

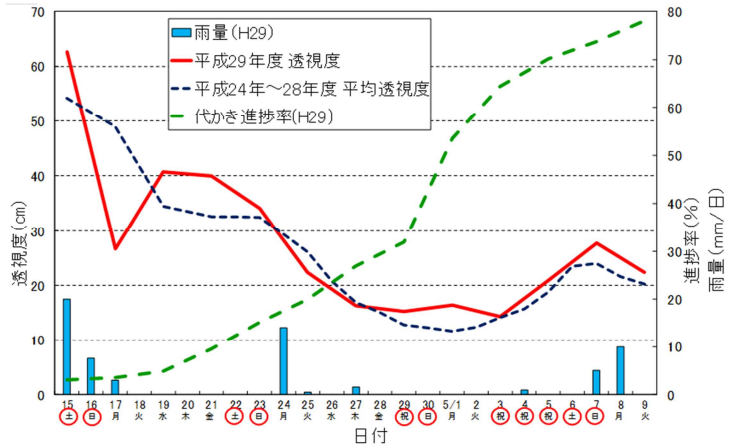
今年も農業排水にご注意ください！

～水や土壌、肥料の効率的な利用で環境に優しい農業を～

水田の水尻から流れ出る農業排水は、排水路から河川を経て琵琶湖に流入します。

水や肥料、農薬などをより自由に活用できるようになった現代、私たちは豊富な資源・資材の恩恵を享受できるようになった半面、過剰に流れ込む栄養分が琵琶湖の環境に影響を与えています。

東近江農業農村振興事務所では、今年度も代かき・田植えの時期に農業排水の流れ込む河川や水路の透視度（水の透明度）を測り、琵琶湖に負荷を掛けない農業の実践を呼び掛けました。各農業者の心がけにより、近年は透視度の低下も一定程度で留まっていますが、なお一層の注意が求められます。



東近江管内の透視度調査結果

● 濁りはせき止め！ 水の入れ過ぎ注意！ ●

①排水口およびその周辺からの漏水防止

入水前に排水口に止水板を設置し、周りの土を踏み固めるとともに、老朽化などによる畦の隙間からの漏水に注意しましょう。

②浅水代かきの実施

浅水で代かきを行うことで、稲わらなどの浮き上がりを抑え、丁寧に均平を図ることができます。そのために、あらかじめ入念にあぜ塗り・均平作業をすることが大切です。

③代かき後の適切な入水

代かき後に水を入れ過ぎ、水尻から水が溢れている状況がよく見られます。水の不足だけでなく入れ過ぎに注意し、小まめに入水状況を確認するよう心がけましょう。

④強制落水の防止

田植直前の強制落水は、濁水流下の最も大きな要因となります。代かき・田植えの期間を通じて常に水の入れ過ぎに注意することが、琵琶湖に優しい農業に繋がります。



水の入れ過ぎが強制落水につながります



GPSによる直進機能付き田植機も登場しており強制落水の防止が期待できます(実演会 平成 29. 5. 23 開催)